

第8回 神戸電鉄粟生線活性化協議会 議事録

日時：平成23年3月23日(水) 14:00～16:00
場所：三木市立教育センター 出席者：別紙のとおり

開 会

- ・ 事務局より、三木市委員について3月18日付で西山技監から北井理事に委員を交代されたとの報告があった。
- ・ 会長より、副会長についても西山技監から北井理事に引き継ぐよう指名された。

(1) 第7回協議会議事録の確認

- ・ 第7回協議会の議事概要について、議事録の確認がなされた。

(2) 報告事項

- 以下の事項について、事務局、委員から資料に基づく報告があった。

①神戸電鉄粟生線活性化協議会規約（別表1）の一部変更について

- ・ 事務局より委員変更に伴う規約変更について報告。

②平成22年度 実施事業の概要（1月以降）

- ・ 事務局より報告。

③平成22年度（～2月）の神戸電鉄粟生線の輸送人員実績

- ・ 三津澤委員より報告。

④平成22年度地域公共交通活性化・再生総合事業の第三者評価委員会における指摘事項等について

- ・ 事務局より報告。

- 委員より以下の意見が出された。

- ・ 自治会の会合等で粟生線の状況報告を行っているが、例えば学区単位とか、もつときめ細かく地域に説明するなど、地域の理解を促進する取り組みが必要である。
- ・ 速達感を高めるために、例えば産業団地のある木津に優等列車を停車させ、速達感の高い運行ダイヤにして、利用者を増やすことを考えてはどうか。

- 座長より以下のコメントがあった。

- ・ 雪の際に利用が増えたことから粟生線の存在意義が現れている。
- ・ 利用実態について、どのような区間にどのような特性の利用者が存在するか分析的に見て有効な施策を考えていてもらいたい。

(3) 議 事

■ 議案 1 号「平成 22 年度 神戸電鉄粟生線活性化協議会歳入・歳出予算（変更）に係る地域負担の内訳（案）」について

<事務局からの議案報告>

- ・ 平成 22 年度事業費において、国費補助（1/2）の残り 1/2 の地域負担分の分担について、沿線 3 市、兵庫県、神戸電鉄で議論してきたが、県の負担が得られないことから、総事業費の 1/4 を 3 市が、残り 1/4 を神戸電鉄が負担することになる。
- ・ また、平成 23 年度事業費についても、県の当初予算に計上されていないため、1/2 の地域負担分の分担は、現時点では 22 年度と同じ考え方になるが、引き続き県には財政負担の要請を行っていく。
- ・ 県としては、安全投資などの施設整備に対しての支援は従来から実施している。基本的に活性化事業は、まずは沿線市が中心になって行うものであるが、今後いろいろと検討していきたいとのコメントがあった。
- ・ 座長より、23 年度以降は県も支援に最大限努力することを前提として、22 年度は、県負担を想定していた分を 3 市が負担するという枠組みとすることで議案 1 号が委員に諮られ承認された。

■ 議案 2 号「神戸電鉄粟生線 地域公共交通活性化・再生総合事業計画の変更認定申請（案）」について

<事務局からの議案報告>

- ・ 平成 23 年度の事業計画として、評価委員会での指摘事項も踏まえ、利用促進効果の高いものに実施施策の見直しを行い、総事業費 95 百万円で約 20 万人の利用者増加を目指した計画案としている旨の報告があった。
- 近畿運輸局より以下の意見が出された。
- ・ 22 年度事業では費用対効果が出ていなかったことも踏まえ、23 年度事業においては十分に費用対効果を考慮した事業内容を考えてもらいたい。
 - ・ 例えば自治体を中心となったタウンミーティングや公共交通利用マップの全戸配布、公共・商業施設や高校・企業での利用の呼びかけなど、地域住民に「乗って残そう」の気運を高めるようなモビリティ・マネジメントに重点を置いて取り組んでももらいたい。
 - ・ 住民に利用を呼びかけるにあたって、例えば日々の通勤での自主的な粟生線利用への転換を促してその状況をフォローアップするなど、まずは自治体職員による公共交通利用率先行動に取り組んでももらいたい。

- ・ 活性化・再生総合事業に関する国の補助は23年度で終了するが、国としては、地域の負担が明確になっており、実施効果が高く実現可能なものであれば、23年度に前倒しして実施する事業については予算をつけるよう配慮する。

○ 委員より以下の意見が出された。

- ・ 昼間の時間帯に市内移動は100円で利用できるきっぷなどがあれば、高齢者など普段鉄道を利用されない住民も利用するようになるのではないか。住民のニーズを聞くというなら地域も協力する。
⇒ 京丹後市の過疎地などではバス運賃を引き下げて利用者が増えた例もある。ただし、行政の補助なしで事業者だけでは難しく、地域の問題として考える必要がある。(座長)
- ・ 押部谷地区には6000世帯ほど居住しており、現在、栗生線を利用していない住民の交通手段や利用実態についてアンケートなどの調査・分析を行ってはどうか。
- ・ 栗生線による移動を促進するため、例えばグランドゴルフや駅伝の対抗戦などの地域間交流イベントを考えてはどうか。
- ・ 利用促進の機運を盛り上げていく運動をどのように起こしていくかを考えていかねばならない。神戸県民局も協議会と情報交換を密にして、協力していきたい。
- ・ 志染周辺は、かつては通勤者が多かったが高齢化が進んでおり、運転免許返納後の移動手段の心配もある。栗生線利用に関する居住者のアンケート調査も考えた
- ・ 小野では先日の陣屋まつりでキャラクターも登場して「乗って残そう」のPRを行ったが、まだまだ認知度は十分とは言えないので、のぼりやポスターなど目に見える形でのPRを実施することも必要ではないか。

○ 座長より以下のコメントがあった。

- ・ 活性化の取り組みとして、地域も巻き込んで、費用対効果の面も含めて持続可能な取り組みとしていくことが重要である。
- ・ いろいろな意見も出してもらったが、23年度の取り組みの大きな方向として本計画を基に事業を進めていくということで議案の承認を諮りたい。
- ・ 議案2号について委員の承認を得た。

(4) その他

○ 神戸電鉄より神戸電鉄の経営状況と経営努力について報告があった。

- ・ 栗生線の収入は減少が続いており、人件費や修繕費の低減は実施しているものの、収入減に追い付いていない。費用構造として固定資産税や減価償却費などの固定

的な資産保有コストが大きく、費用削減の余地がなくなっている。

- ・ 全社的にも無配や社員給与の大幅カットの継続やグループ会社の整理などのリストラを行っているがそれも限界にきている。
 - ・ 三津澤委員より、利用促進には引き続き取り組んで利用者の減少に歯止めをかけたいが、このような状況下で、今後も粟生線で大幅な赤字を続けていくのは民間企業として困難となっていることから、例えば他地域で採用されている上下分離等の手法も含めて、資産保有コストの負担軽減が図れるような方策について、関係自治体にその採否の検討をお願いする要望書を出したいと考えており、本年12月までには来年度以降の見通しをつけたいと考えている旨のコメントがあった。
 - ・ 座長より、神戸電鉄の報告は、鉄道を残すためにやれることを考えていこうということで、その方法を行政とも話をしながら模索していこうということだと思ふとのコメントがあった。
- 会長より、4月1日から会長職を三木市の北井理事に交代することとしたいとの報告があり了承された。

閉 会

以上

第8回 神戸電鉄粟生線活性化協議会 出席者（敬称略）

○委員

氏名	所属・役職	出欠
山本 雄司	神戸市企画調整局 企画調整部 主幹	代理出席
西山 誠	三木市 技監	代理出席
小林 清豪	小野市 副市長	
三津澤 修	神戸電鉄株式会社 常務取締役 鉄道事業本部長	
中垣 千秋	押部谷町連合自治協議会会長	
中野 美都子	押部谷町連合自治協議会副会長	
蓬莱 道龍	前 三木地区区長協議会会長	欠席
安福 恵子	三木市区長協議会連合会会長	
田中 歳彦	前 小野市連合区長会会長	
多鹿 豊	小野市商店街理事	
土井 勉	京都大学大学院 工学研究科 特定教授	

○オブザーバー

氏名	所属・役職	出欠
浪越 祐介	国土交通省 近畿運輸局 企画観光部 交通企画課長	欠席
川崎 廣	国土交通省 近畿運輸局 鉄道部 計画課長	
尾原 勉	兵庫県 県土整備部 県土企画局 交通政策課長	
大西 稔	兵庫県 神戸県民局 総務室 交流・連携参事	
土取 充	兵庫県 北播磨県民局 総務室 まちむら交流参事	
山本 琢也	神戸市西区 まちづくり推進部 まちづくり推進課長	